

令和7年度 施設自己評価



園名		評価日		令和8年3月31日	
評価基準		A(大変優れている): 施設全体で高い意識を持って取り組み、素晴らしい成果や独自の工夫が見られる状態 B(適切である): 計画通りにしっかりと実施されており、子どもたちが安心して過ごせる安定した状態 C(改善が必要): 取り組んでいるものの、さらにより良くていくための課題や見直す点がある状態 D(早急な対応が必要): 基準に達しておらず、子どもたちのためにより良い環境へ向けた早急な対応や改善が必要な状態			
No	項目	内容	評価 (A/B/C/D)	意見・改善案	
1	園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている。	B	全体計画に沿って職員間で細かく発達状況を共有し、質の高い指導計画を作成できています。今後は、新任職員も含めたチーム全体で計画の『ねらい』を深く再確認する機会を増やし、日々の保育実践へ確実に繋げていきます。	
2		全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者等が持っている。	C		
3		指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	A		
4		子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態などについて職員間で話し合う機会を設けている。	B		
5	子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	B	園内研修を軸に、子どもの権利擁護と個人情報保護に関する共通理解を深めています。不適切な関わりを防ぐための自己省察(振り返り)を日常化しており、今後も全職員が高い倫理観を持って、子どもたちが主体性を発揮できる安心・安全な環境づくりに努めます。	
6		個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している。	B		
7		保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	B		
8		子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)。	B		
9		保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない。	B		
10	愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0・1・2歳児)。	A	個々の心情に寄り添った受容的な関わりを通じ、愛着関係の形成と情緒の安定を図っています。個別配慮に基づく生活リズムの確立にも努めており、今後は家庭とのパートナーシップをさらに深めることで、生活を見据えたより細やかな支援を追求してまいります。	
11		保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	B		
12		子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている。	B		
13	環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	午睡時の呼吸確認をはじめ、安全管理手順の遵守を徹底しています。今後はその安心感を基盤に、子どもたちの興味や発達の連続性を見極めた環境構成に注力し、自ら遊びを展開していける主体性を育む場を整えてまいります。	
14		各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	B		
15		施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	B		
16	健康・安全	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	B	マニュアルを遵守した感染症対策およびアレルギー管理を徹底し、安全な給食提供と食育を実践しています。今後は保健・給食だよりの内容をより深化させ、定期的な発行に留まらないタイムリーな情報共有を通じて、家庭や地域と共に歩む健康増進活動を推進してまいります。	
17		定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している。	A		
18		子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる。	A		
19		保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A		
20		アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A		
21		家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる。	B		
22	教育・保育計画	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる。	B	職員会議を通じて園の保育方針の浸透を図り、全職員が同じ方向を向いて保育にあたる体制を整えています。長期欠席等の状況把握も迅速に行っており、今後はさらに一歩踏み込み、関係機関との緊密なネットワークを構築することで、より重層的な支援体制を確立してまいります。	
23		全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)。	C		
24		一人ひとりの子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	C		
25		長期欠席の子ども状況把握をしている。	C		
26	教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている。	C	研修での学びを職員間で共有し、常に保育のアップデートに努めています。皆様から頂いたアンケートの結果は大切に検討し、日々の保育の充実さに繋げてまいります。今後は、職員同士で保育を見せ合い、学びを深める『公開保育』などの自主的な取り組みも強化し、園全体でより良い保育を追求していきます。	
27		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を十分に理解し、向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	C		
28		社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている。	C		
29		教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができている。	C		
30		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている。	C		
31		保育者等の自己評価結果などに基づき施設長と職員での話し合いを実施している。	B		
32	幼保小連携	児童票・児童要録・幼保小連携計画などを作成している。	B	就学に向けた要録の携行と小学校との綿密な情報共有により、個々の育ちを途切れさせない支援に努めています。専門機関の助言を全職員で共有し、就学を見据えたプログラムを保育に導入しています。今後は小学校との直接的な交流機会をさらに拡充し、『幼保小の円滑な接続』を組織として具現化してまいります。	
33		小学校進学するにあたっては小学校へ児童要録を送付、連絡会議等にも出席し、小学校との情報共有を図る。	A		
34		0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	A		
35	特別支援	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている。	B		
36		子どもの様子で気になることは関係機関に報告している。	B		
37		地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭を関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	B		
38	保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	B	地域の子育てで家庭に対する積極的な情報発信を行い、支援のアクセシビリティ向上に努めています。日々の送迎や行事を通じた保護者との対話により、発達の喜びを共有する強固な信頼関係を構築できています。今後は第三者評価やアンケートの客観的な視点も真摯に反映させ、利用者ニーズに即した質の高い園運営を追求してまいります。	
39		子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている。	C		
40		第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	B		
41		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている(アンケート・行事等)。	C		
42	健康・安全(事故防止)	安全計画(児童の安全を確保するための計画)を策定し、見直し・周知・訓練を含めて運用している。	C	安全計画の運用とヒヤリハット分析に基づき、事故防止を徹底しています。苦情解決体制についても周知を完了していますが、今後は分析から導き出した改善策の進捗管理をより厳格化し、安全性のさらなる向上を図ります。また、職員の自己評価を基に課題を整理した上で、BCP(事業継続計画)の点検や避難訓練を定期的に行い、災害時にも迅速に対応できる体制を構築してまいります。	
43		事故・ヒヤリハットを分析し、再発防止策を具体化して改善の進捗を確認している。	C		
44	苦情解決・個人情報保護	苦情解決体制(受付・対応・記録・再発防止)を整備し、保護者へ周知して適切に運用している。	C		
45	第三者評価・自己評価の活用	自己評価結果を踏まえた改善計画を作成し、結果の公表(または保護者への説明)を行っている。	C		
46	防災・危機管理	災害時・感染症流行時等の事業継続(BCP)や連絡体制を整備し、定期的に点検している。	B		
考察		今年度は安全管理と日々の保育の質を維持し、安定した保育環境を提供することができました。若手職員の活力が当園の強みである一方、計画の意図を汲み取った柔軟な対応には、中堅・リーダー層による継続的な支援が重要であると再認識しています。次年度は対話型フィードバックを強化し、個々の専門性を高め合う『共学的』な風土を醸成することで、組織的な保育の質を追求してまいります。			